

シカゴ大学教師教育カリキュラムにおける 「教科に関する科目」 －デューイ教育学科長・教育学部長時代－

伊藤 敦 美

1. 研究の問題と目的

シカゴ大学における教師教育は、1895年にJ.デューイを学科長として教育学科において始められた。その後、1901年にF.W.パーカーを学部長として教育学部が開設された。デューイの教育学科では教育学研究・教育、師範学校や教員養成校の教師・教育長等の専門職教育及び中等教員養成を、パーカーの教育学部では初等教員養成を行っていた。しかしながら、1902年にパーカーが急逝したことにより、デューイは教育学部長に就任し教育学科と教育学部が分業していた役割を統合する必要に迫られた。デューイ学部長の下、シカゴ大学教育学部における教員養成の水準はジュニアカレッジ相当（学部1・2年）の初等教員養成から、シニアカレッジ相当（学部3・4年）の初等・中等教員養成へと高度化された。大学院課程における教師教育も積極的に推進されることとなった。デューイは、大学の各学問分野において専門教育を受けた学生を教員として養成することを目指し、教師教育は大学全体で開かれた形で取り組む大学の機能と位置づけ、その機能のコーディネーションを教育学部が担うというハーパー学長の構想に基づいてシカゴ大学において教育学部改革を進めた¹⁾。

デューイが教育学部長として挑んだ、大学の各学問分野において専門教育を受けた学生を教員として養成する課題、この課題解決のための大学全体で教師教育を担う体制の構築は、教職課程の質的水準の向上を目指す今日の日本の教職課程改革に大きな示唆を与え得る教育実践である。

中央教育審議会初等中等教育分科会の教員養成部会「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申）」（平成27年12月21日）においては、教職課程における教科に関する科目の充実が求められている。具体的には、教科に関する科目の実施に当たって、教科専門の教員と教科の指導法を担当する教員が講義を協働で行うといった教科と教職の連携を進めること、他学部等と連携し、高度かつ最新の専門的知見に基づく科目を開設することなどが提案されている²⁾。

そこで、本稿では、デューイ教育学科長時代（1896-1901年度）及び教育学部長時代（1902-1903年度）のシカゴ大学教師教育カリキュラムにおける「教科に関する科目」を分析することを通して、教科専門及び教科の指導法に関する科目の位置づけを明らかにすることを目的とする。カリキュラムの分析検討は『シカゴ大学年次記録』（*Annual Register*）を中心に行う。

大学の各学問分野において専門教育を受けた学生を教員として養成することを目指し、大学全体として教師教育に取り組むことを念頭に置いたシカゴ大学教師教育カリキュラムを検討することにより、今日の日本の教職課程における「教科に関する科目」と「教職に関する科目」の在り方への示唆を得ることができると考えられる。

2. 19世紀初頭から20世紀初頭の教師教育の課題

まず、デューイがシカゴ大学において教師教育実践を行った、19世紀末から20世紀初頭のアメリカにおける教師教育の課題について概観する。19世紀に入ると、コモン・スクールの発達に伴い、初等学校の教師を供給する必要が生じた。そのために、公的な機関の手によって、教師を目的的に養成するための師範学校（ノーマル・スクール）が成立した。それは、教師の職業を専門職（プロフェッション）とし、そのための専門職業訓練を与える、という新しい理念を提起した³⁾。こうして成立した最初の師範学校においては、素朴な形態ではあったが、教科、方法、実習の三本の柱が組み立てられた。以降、各師範学校は、その組み合わせに独自の工夫をこらしながら、教師教育という建築物を構築してきた⁴⁾。

その第1である「教科」の専門教育については、「公立学校で教えられている初等教科の再吟味」が重視されていた。他方で、この初等教科の重視について次のような批判も出ていた。①初等教科よりもさらに高い程度の学科を提供することによって、教師としての学力を身に付けさせるという、アカデミックな立場からの批判、②教師の専門職業教育を積極的に認める人の中から出た、教科そのものの水準を高めることによって教師の一般教養を培うことを要求する意見、③初等教科の内容よりもその扱い方に力点を置く立場からの批判、つまり、教科が構成されている論理に従って、それを後に子供に教えるという意識のもとで初等教科を扱うことは、初等教科を復習することとは全く別のことであるという批判である⁵⁾。

20世紀になると、ハイ・スクールの目覚ましい発展（表1、表2参照）によって、中等学校教師の需要を満たすという問題が生じた。このハイ・

スクールの普及は、新しい中等学校教師像の確立と、その養成方法の改革の課題を提起した。伝統的には、中等学校教師は、総合大学や教養大学における学科専門の課程を修了すれば、それで充分であるとみなされていた。つまり、「4か年課程のカレッジでの研究でかち得られるすぐれた教養教育（リベラル・エジュケーション）」で十分であるとされていた⁶⁾。しかしながら、1930年代になると、教師教育をめぐる大学と師範学校の見解が「統合化」されて、「専門職的な裏打ちをもった大学水準の教育」という方向が打ち出されてくる。具体的な問題として、師範学校の「大学化」と、一般大学の「教育学化」をはかるための、教育課程のあり方が問題になってきた⁷⁾。

師範学校が大学に昇格するためには、解決すべき多くの課題があったが、とりわけ、最初の課題としては、入学資格と修業年限の2点が重要であった。中等学校教師を養成するためには、少なくともハイ・スクールの卒業生を入学条件とすべきであったが、19世紀の終わり近くまで多くの師範

表1 公立中等学校数の推移

1860年	321
1880年	800
1890年	2,526
1900年	6,005
1910年	10,213
1930年	23,930

三好『教師教育の成立と発展』170頁より引用

表2 1890年と1930年の教育比較

		1890年	1930年	伸び率
公立小学校児童数		12,519,618人	21,278,593人	1.7倍
中等学校	学校数	4,158校	24,997校	6.0倍
	生徒数	202,963人	4,399,422人	21.7倍
	教師数	16,329人	235,092人	14.4倍
幼稚園児数		225,394人	717,899人	3.2倍

三好『教師教育の成立と発展』171頁より引用

学校は試験入学の方法をとり、学校卒業資格を要求しなかった。入学資格の条件を高めることによって入学志望者の数が減少すれば、教師不足はますます拍車がかかり、師範学校の収入減となり、財政困難に陥る危険が伴ったからである。それでも、1918年の調査では、168校の師範学校のうち、108校までがハイ・スクールの卒業を要求するようになった⁸⁾。

修業年限については、初期の師範学校は1カ年課程から出発し、2カ年課程になるのに約20年を要した。それを4カ年の課程に引き上げることは容易なことではなかった。それでも、19世紀が終わりに近づくにつれて4年課程の師範学校が増えてきた。しかし、それは、初等学校卒業プラス4年という形であった。ところが、ハイ・スクールの卒業生を入学させるようになると、修業年限は再び1カ年課程に逆戻りすることになった。つまり、ハイ・スクール卒業プラス1年という形である⁹⁾。

スタイルに(L.J.Stiles)よれば1890年にアメリカにおいて教師教育を行っていた大学はわずか25校であったという¹⁰⁾。このような時代にあつて、シカゴ大学においては、1895年に教育学科を開設し、デューイ学科長の下に、教育学研究・教育、師範学校や教員養成校の教師・教育長等の専門職教育及び中等教員養成をシニアカレッジ・コース(学士課程3・4年段階)及びグラデュエイト・コース(大学院課程)において行った。1903年からは、デューイ教育学部長の下に、シニアカレッジ相当の初等教員養成、中等学校教員と師範学校教員養成を行う体制を整えた。

3. デューイ学科長時代(1896-1901年度)の教育学科における教師教育

3-1 教育学科の目的における「教科に関する科目」の位置づけ

『シカゴ大学年次記録』に記されている教育学科の目的より、教育学科における「教科に関する科目」の位置づけについて検討する。教育学科の目的は、以下のとおりである。

当学科の主目的は、教育上の諸問題を広範かつ科学的に取り扱う有能なスペシャリストを養成することである。この目的のために、開講科目は大きく3つの項目に分けられている。(1)心理学およびそれに関連する諸科目、(2)教育理論の諸科目、(3)さまざまな専門科学の教授法である。(・・・中略引用者・・・)

教育の理論と方法を学ぶためには、その基礎として心理学の諸原理を十分に習得しておく必要がある。教育諸問題を科学的に研究するために

は、あらかじめ知性の発展について現代の研究成果と方法に精通しておく必要がある。教育の究極の目的を理解するためには、倫理学によってさまざまな価値と理想を評価できるようにしておく必要がある。広い視野を獲得するためには、人間の精神史をよく知っておく必要がある。それゆえ、教育理論に関する科目群を受講するためには、あらかじめ哲学 科学の3つの入門科目（心理学、倫理学、論理学 引用者による）を受講し、そのうえで上記の諸方面の学習をすすめながら当学科の専門を深めていくようにすることが望ましい。それに加えて、さらには生物学、生理学、神経学、社会学などの関連諸科目にも関心を向ける必要がある。

教育理論は往々にして、論理学同様、最新の科学の研究動向から疎遠なままになっている。語学や自然科学の有能な研究者や教師はそれらの科目の教授法に関してもっと積極的な貢献をすべきである。なぜなら、純粋に抽象的な教育学では、しばしば教材と方法の間の密接な関係が無視されているからである。それゆえ、他学科において、それぞれの専門科学の方法論に特に強調をおいた科目を受講するようにしている。（…中略引用者…）

また、学校現場をいろいろと見てまわり、教師や教育長の立場から理論と実践の関係を批判的に評価することもレポートや討論による通常の授業の一部をなしている。

教育学科に付設されている小学校では、科学的な観察と調査の機会が提供される。さらに広範な観察の機会は、中等の諸学校で提供されるだろう¹¹⁾。

この目的より、教育学科における「教科に関する科目」は、次のように位置づけられていたと整理できる。すなわち、①哲学科の3つの入門科目（心理学、倫理学、論理学）を受講する、②生物学、生理学、神経学、社会学などの関連諸科目にも関心を向ける、③他学科において、専門科学の方法論に特に強調をおいた科目を受講するという3点である。

3-2 教育学科開設コース¹²⁾

教育学科は、ジュニアカレッジ・コース（Junior College Courses）、シニアカレッジ・コース（Senior College Courses：学士課程3・4年段階）、グラデュエイト・コース（Graduate Courses：大学院課程）の3つのコースから成っていた。

このうち、ジュニアカレッジ・コースの授業科目が開設されているのは、

1898年度のみである。1898年度にジュニアカレッジ・コースに位置づけられていた授業科目は、翌年度よりシニアカレッジ・コースに移されている。

教育学科では、現職教員を対象にして、校長、教育長、指導主事、師範学校長など一般の教員を指導する立場をめざす教育専門職の養成をおこなうとともに、全学の一般学生のうちで卒業後中等教員をめざす学生を対象にした教職課程も受け持っていた。カリキュラム上、前者は主としてグラデュエイト・コースとして開設され、後者は、シニアカレッジ・コースとして開設されていた¹³⁾。

3-3 「教科に関する科目」

では実際の授業科目はどのようになっていたのか。3-1で示した①～③について、『シカゴ大学年次記録』に基づいて検討する。

まず、①哲学科の3つの入門科目（心理学、倫理学、論理学）を受講することについては、この3つの授業科目を受講した後に、(1)心理学及びそれに関連する科目群、(2)教育理論の科目群、(3)さまざまな専門分野の教授法の科目群へと学習を進めることになっていた。哲学科と教育学科の連携が見られる。

次に、③他学科において、それぞれの専門科学の方法論に特に強調をおいた科目を受講することについて。1896年度版の『シカゴ大学年次記録』には他学科の関係する授業科目についての記載はなかったが、1897年版より「他の学科の関係する科目群」として教育学科の科目群の後に教育学科の学びと関係する他学科の授業科目が記載されている。表3に具体的な授業科目を記す。

1897年度は13分野に及ぶ教育学科の学びと関係する授業科目が挙げられている。ここで示されている分野には、教育学科の目的に「生物学、生理学、神経学、社会学などの関連諸科目にも関心を向ける」（前項において②と分類した）と記されていた「生物学、生理学、神経学、社会学」も含まれている。

1898年度（7分野）、1899年度（6分野）、1900年度（6分野）は教育学科の学びと関係する他学科の授業科目としてはほぼ同じ授業科目が挙げられている。これらの授業科目は他学科の教員によって実施されていた。

表3 他学科の関係する授業科目

1896	他学科の関係する授業科目についての記述なし
1897	<p>【歴史 (History).】</p> <p>25. ギリシア史の教師コース (Teacher's Course in the History of Greece.) M or DM 夏学期・前期</p> <p>80. アメリカ史の教師コース (Teacher's Course in American History.) M or DM 夏学期・前期</p> <p>【社会学と人類学 (Sociology and Anthropology).】</p> <p>26. 民族心理学 (Folk Psychology.) Mj 秋学期 (春学期)</p> <p>28. 性別の社会心理学 (The Social Psychology of Sex.) 履修形態の記述なし、冬学期</p> <p>30. 原始的な社会統制 (Primitive Social Control.) Mj 秋学期</p> <p>73. 社会精神 (The Social Mind.) Mj 冬学期</p> <p>79,80,81. 構成的な学校哲学のアウトライン (Outlines of Constructive School Philosophy.) 3Mj 冬学期.</p> <p>80・81は97年度は開講しない</p> <p>82,83,84. セミナール：社会目的論の問題 (Seminar. Problems of Social Teleology.) 3Mj 冬学期・春学期</p> <p>98. 社会機能としての教育 (Education as a Social Function.) Mj 春学期</p> <p>【比較宗教 (Comparative Religion).】</p> <p>3. インドとペルシアの宗教 (The Religions of India and Persia.) Mj 冬学期</p> <p>4. ギリシア、ローマ、ヨーロッパ北部の宗教 (The Religions of Greece, Rome, and Northern Europe.) Mj 春学期</p> <p>5,6. ユダヤの宗教 (The Religions of the Semites.) 2Mj 冬学期・春学期</p> <p>9. 他の宗教とキリスト教の関係 (The Relations of Christianity to the Other Religions.) 履修形態の記述なし、春学期</p> <p>11. 宗教の科学 (The Science of Religion.) Mj 冬学期</p> <p>12. 宗教の哲学 (The Philosophy of Religion.) Mj 春学期</p> <p>13. 比較宗教学、宗教の機関 (Comparative Theology, Institutions of Religion.) 2Mj 秋学期</p> <p>【セムの言語と文化 (The Semitic Languages and Literature).】</p> <p>40. ヘブライ哲学と倫理 (Hebrew Philosophy and Ethics.) Mj 冬学期</p> <p>64. ラビの哲学 (Rabbinical Philosophy.) 2Mj 冬学期</p> <p>87. アラブの哲学的な文学 (Philosophical Literature of the Arabians.) Mj 冬学期</p> <p>【ギリシアの言語と文学 (The Greek Language and Literature).】</p> <p>51,52,53. セミナール：古代哲学の歴史 (Seminar. The History of Ancient Philosophy.) 3Mj 秋学期・冬学期・春学期</p> <p>【ラテン語の言語と文学 (The Latin Language and Literature).】</p> <p>17. セネカ：散文著作からの選択 (Seneca.) M 夏学期・後期</p> <p>30. キケロの著作にみられるローマ哲学 (Roma Philosophy as seen in the Writings of Cicero.) Mj 春学期</p> <p>36. 教師教育コース (Teacher's Training Course.) Mj 冬学期</p> <p>【ドイツの言語と文学 (The Germanic Languages and Literatures).】</p> <p>14A. 日常テーマの教員のコース (Teachers' Course in Daily Themes.) M 夏学期・前期</p> <p>【英語の言語と文学 (The English Language and Literature).】</p> <p>11. 修辞学および修辞的なメソッドの歴史のセミナー (Seminar in the History of Rhetoric and Rhetorical Methods.) Mj 冬学期</p> <p>48. シェイクスピアのモラルシステム (Shakespeare's Moral System.) Mj 春学期</p> <p>83. ドラマの理論 (The Theory of Drama.) Mj 秋学期</p> <p>【数学 (Mathematics).】</p> <p>30. 数学教育学に関するカンファレンス (Conference on Mathematical Pedagogy.) M 夏学期・前期</p> <p>【地質学 (Geology).】</p> <p>1. 自然地理学 (Physiography.) DM 夏学期・前期</p> <p>【生理学 (Physiology).】</p> <p>1. 入門生理学 (Introductory Physiology.) Mj 秋学期</p> <p>2. 一般生理学 (General Physiology.) M 夏学期・前期</p> <p>3. 一般生理学の実験室でのワーク (Laboratory Work in General Physiology.) M 夏学期・前期</p> <p>4. 神経と筋肉の生理学 (Physiology of Nerves and Muscles.) M 夏学期・後期</p> <p>7. 中枢神経系と感覚の生理学 (Physiology of the Central Nervous System and the Senses.) Mj 春学期</p> <p>9. 脳生理学と感覚の実験室でのワーク (Laboratory Work in Brain Physiology and the Senses.) M 夏学期・後期</p> <p>【神経学 (Neurology).】</p> <p>1. 中枢神経系の構造 (The Architecture of the Central Nervous System.) Mj 秋学期</p> <p>2. 知性に関する脳の成長と物理的な特徴 (The Growth of the Brain and its Physical Characters as related to Intelligence.) Mj 冬学期</p> <p>3. 中枢神経系と感覚器官の歴史 (History of the Central Nervous System and Sense Organs.) Mj 春学期</p> <p>5. 脳の発達 (Growth of the Brain.) Mj 夏学期</p> <p>6,7,8. セミナール：研究方法の入門、神経学の指針となる概念の歴史等 (Seminar.) 3Mj 秋学期・冬学期・春学期</p> <p>9,10,11. 研究：神経学的な問題に関する研究 (Research. The Study of Neurological Problems.) 3Mj 1年を通しての実験室での活動</p> <p>【植物学 (Botany).】</p> <p>2. 生物進化 (Organic Evolution.) Mj 夏学期・冬学期</p>

1898	<p>【歴史 (History).】</p> <p>26. ローマ史の教師コース (Teacher's Course in the History of Rome.) DM 夏学期・前期</p> <p>80. アメリカ史の教師コース (Teacher's Course in American History.) M 夏学期・前期</p> <p>【社会学と人類学 (Sociology and Anthropology).】</p> <p>95. 中等学校における経済学の教育への教育社会学の適用方法 (Method of Applying Sociological Pedagogy to the Teaching of Economics in Secondary Schools.) M 夏学期・前期</p> <p>98. 社会精神と教育 (The Social Mind and Education.) Mj 春学期</p> <p>【ラテン語の言語と文学 (The Latin Language and Literature).】</p> <p>7. キケロの書簡 (Cicero's Letters.) Mj 春学期</p> <p>14. キケロの書簡 (Cicero's Letters.) Mj 夏学期</p> <p>38B. 教師教育コース (Teacher's Training Course.) Mj 秋学期</p> <p>38C. 教師教育コース (Teacher's Training Course.) Mj 夏学期</p> <p>【ドイツの言語と文学 (Germanic Languages and Literatures).】</p> <p>14A. ドイツの演習とエッセイ (Deutsche Aufsätze und Stilübungen.) M 夏学期・前期、Mj 秋学期</p> <p>【英語の言語と文学とレトリック (English Language and Literature, and Rhetoric)】</p> <p>12. 学校や大学における英作文とレトリックの教授 (The Teaching of Rhetoric and English Composition in Schools and Colleges.) M 夏学期・前期、Mj 秋学期</p> <p>【数学 (Mathematics).】</p> <p>30. 数学教育学に関するカンファレンス (Conference on Mathematical Pedagogy.) M 夏学期・前期</p> <p>【地質学 (Geology).】</p> <p>1a. 自然地理学 (Physiography.) M 夏学期・前期</p> <p>1b. フィールドと実験室のコース (Field and Laboratory Course.) M 夏学期・前期</p>
1899	<p>【歴史 (History).】</p> <p>26. ローマ史の教師コース (Teacher's Course in the History of Rome.) DM 夏学期・後期</p> <p>80. アメリカ史の教師コース (Teacher's Course in American History.) M 夏学期・前期</p> <p>【社会学と人類学 (Sociology and Anthropology).】</p> <p>98. 社会機能としての教育 (Education as a Social Function.) Mj 春学期</p> <p>【ラテン語の言語と文学 (The Latin Language and Literature).】</p> <p>7. キケロの書簡 (Cicero's Letters.) Mj 春学期</p> <p>14. キケロの書簡 (Cicero's Letters.) 記述なコース形態・時期の記述なし</p> <p>38A. 教師教育コース (Teacher's Training Course.) Mj 冬学期</p> <p>【ドイツの言語と文学 (Germanic Languages and Literatures).】</p> <p>14A. ドイツの演習とエッセイ (Deutsche Aufsätze und Stilübungen.) Mj 夏学期、Mj 秋学期、Mj 春学期</p> <p>【数学 (Mathematics).】</p> <p>30. 数学教育学に関するカンファレンス (Conference on Mathematical Pedagogy.) M 夏学期・前期</p> <p>【地質学 (Geology).】</p> <p>1A. 自然地理学 (Physiography.) M 夏学期・前期</p> <p>1B. フィールドと実験室のコース (Field and Laboratory Course.) M 夏学期・前期</p>
1900	<p>【歴史 (History).】</p> <p>26. ギリシア史の教師コース (Teacher's Course in the History of Greece.) DM 夏学期・後期</p> <p>80. アメリカ史の教師コース (Teacher's Course in American History.) Mj 夏学期</p> <p>【社会学と人類学 (Sociology and Anthropology).】</p> <p>98. 社会機能としての教育 (Education as a Social Function.) Mj 春学期</p> <p>【ラテン語の言語と文学 (The Latin Language and Literature).】</p> <p>14A. キケロの書簡 (Cicero's Letters.) M 夏学期・前期</p> <p>8A. 教師教育コース (Teacher's Training Course.) Mj 秋学期</p> <p>【ドイツの言語と文学 (Germanic Languages and Literatures).】</p> <p>14A. ドイツの演習とエッセイ (Deutsche Aufsätze und Stilübungen.) Mj 夏学期、Mj 秋学期、Mj 春学期</p> <p>【数学 (Mathematics).】</p> <p>30. 数学教育学に関するカンファレンス (Conference on Mathematical Pedagogy.) M 夏学期・前期</p> <p>【地質学 (Geology).】 1B. フィールドと実験室のコース (Field and Laboratory Course.) M 夏学期・前期</p>
1901 年度	<p>他学科の関係する授業科目についての説明のみ。具体的な授業科目は挙げられていない。</p>

* 授業科目名の後のM=Minor courseで1日に1時間を6週行うもの、Mj=Major Courseで1日に1時間を12週行うもの、DM=Double Minor courseで1H2時間を6週行うもの、DMj=Double Major Courseで1日に2時間を12週行うものである。<Annual Register 1896~1901より筆者作成>

1898年を例にすると、【歴史】「ローマ史の教師コース」は歴史学科教授のグッドスピード (G.S.Goodspeed)、「アメリカ史の教師コース」は助教授のスパークス (E.E.Sparks) が担当していた。いずれも、文献を用いた学習及び特定のトピックスについての研究を行うといった教科専門科目である。【社会学と人類学】「中等学校における経済学の教育への教育社会学の適用方法」はハイドパーク・ハイスクールの教員 サーストン (H.W.Thueston)、「社会精神と教育」は社会・人類学科の助教授 ヴィンセント (G.E.Vincent) が担当していた。【ラテン語の言語と文学】「キケロの書簡」はラテン語・ラテン文学学科教授 アボット (F.F.Abbott)、「教師教育コース」は学科長 ヘイル (W.G.Hale)、講師 ランド (E.K.Rand)、カンザス大学ラテン語学科教授ウォーカー (A.T.Walker) が担当していた。

1901年度は、関連する授業科目の説明文¹⁴⁾は掲載されているが、具体的な授業科目名は挙げられていない。この説明文は、前年度までは掲載されていなかったものである。

これらの結果から、デューイ学科長時代の教育学科では他学科と連携して教師教育を行っており、「教科に関する科目」のうち、教科専門科目は他学科において実施し、教科の指導法に関する科目についても、若干ではあるが他学科において実施していたことが明らかになった。

4. デューイ学部長時代 (1902-1903年度) の教育学部における教師教育

4-1 教育学部の目的における「教科に関する科目」の位置づけ

『シカゴ大学年次記録』に記されている教育学部教員養成部の目的より、「教科に関する科目」の位置づけについて検討する。教育学部教員養成部の目的は以下のとおりである。

教員養成部では、小学校教育と中等教育において生じる問題について、教育学的な観点からコースが設けられている。諸コースは、小学校と中等学校と師範学校の教師と指導主事の教育、幼稚園教師、その他の教育に関するスペシャリストの養成のためにデザインされている。教育学部のそれぞれのメンバーは、学部全体の教育計画とワークを熟知しているので、カリキュラムの中で担当の授業科目と他の授業科目の関係が明瞭に表れるよう諸コースを提供できる。

すでに教育に携わっている、あるいは教育の専門職に自分自身を適応させたいと望んでいる人のニーズのために特別に配慮した、教育学

理論を開発し、実践において例証することが目的である。

教員養成部のカリキュラムは、小学校、中等学校、師範学校で教えられている全ての授業科目の教育学的な提案が含まれている、そして、心理学と教育史も含んでいる¹⁵⁾。

教員養成部のカリキュラムには、小学校、中等学校、師範学校の全ての授業教科への教育学的提案、及び、心理学や教育史といった授業科目も含まれているという。この記述からは、積極的に他学科と連携するという提案は見られない。

4-2 教育学部教員養成部開設コース¹⁶⁾

(1) 1901年度（パーカー教育学部長）

初等教員養成を目的とする2年コースと、通常のコースを修了した者を対象としたグラデュエイト・コースが開設されていた。グラデュエイト・コースは、すべての学部で提供され、修了後にはディプロマが授与されることになっていた。

(2) 1902年度（デューイ教育学部長）

初等教員養成を目的とする2年コースと、通常の2年コースに加えてさらに1年履修する3年次、2年コース・3年コースを修了した後に、小学校の教科のうち特定の教科（専科）について専門を深める特科コースの3つのコースが開設されていた。2年コース、3年コース修了者にはディプロマが授与されることになっていた。

(3) 1903年度（デューイ教育学部長）¹⁷⁾

ジュニアカレッジ相当で初等教員養成を目的とする全科Aコース（1902年度入学生のみ対象）、シニアカレッジ相当で初等教員養成を目的とする全科Bコース（1903年度以降入学生対象）、ジュニアカレッジ修了者及び教育学部以外のシニアカレッジ在学生在が登録して中等教員、師範学校教員をめざす中等学校教員と師範学校教員志望者コース、「音楽」(Music)、「スピーチ・音読・演劇」(Speech, Oral Reading, Dramatic Art)、「絵画」(Drawing and Painting)、「模型」(Modeling)、「織物」(Textile)、「家政」(Household Art)、「木工加工」(Woodworking)、「金属加工」(Metalwork) の非アカデミック教科のいずれかに特化した教員養成を行う芸術・技芸コース、の4つのコースから成っていた。正規学生の入学要件は、少なくとも4年のハイ・スクール課程の上に2年間の学業（カレッジでも師範学校でもよい）と変更された。この1903年度には、ジュニアカレッジ

相当の初等教員養成学部から、シニアカレッジ相当の初等・中等教員養成学部に大きく変更されたといえる。ジュニアカレッジ段階を修了して教職を目指す者、師範学校2年課程を修了してさらに高いレベルの教師教育を受けようとする者を入学者として予定した¹⁸⁾。Aコース修了者にはディプロマ、Bコース修了者には教育学の特別ディプロマと教育学学士号、中等学校教員と師範学校教員志望者コース修了者には専門分野に応じて文学士(A.B.)、哲学士(Ph.B.)、理学士(S.B.)のうちのいずれかと教育学の専門職ディプロマが授与されることとなっていた。芸術・技術コースは、学位は取得できないこととなっていた。

4-3 「教科に関する科目」

では実際の授業科目はどのようになっていたのか。『シカゴ大学年次記録』に基づいて検討する。初等及び中等以上の教師教育における「教科に関する科目」について検討するために、ここでは、1903年の①全科コースB(初等教員養成：シニア・カレッジ相当)と②中等学校教員と師範学校教員志望者コースのカリキュラムを取り上げる。

まず、①全科コースBについて検討する。このコースは、2年間で以下の18 Majorsを履修することになっている。表4に哲学と教育学を除く、それぞれの分野で開講されている授業科目と担当者を示す¹⁹⁾。

哲学と教育学 (Philosophy and Education) 3 Mjs.
 歴史、英語、音読 (History, English and Oral Reading) 3 Mjs.
 技芸 (Arts) 2 Mjs.
 算数 (Mathematics) 1 Mj.
 科学 (地理を含む) (Science, including Geography) 3 Mjs.
 選択科目 (Electives)²⁰⁾ 6 Mjs.

いずれの授業科目も、教育学科の教員が担当である。授業内容を見ると、教科専門及び教科の指導法に関する科目の両方を含んでいる。同コースでは、他学科の専門的な授業科目の履修は求められてはいなかった。

次に、②中等学校教員と師範学校教員志望者コースについて検討する。このコースには、12の専門分野 (History and Civics, Greek, Latin, French, German, English Language and Literature, Mathematics, Physics, Chemistry, Geography, Physiography, Geology, Biology (including Zoology and Botany), Home Economics) が設けられている。

表4 全科コースBの履修に関わる授業科目

歴史 (History)	
21. 歴史の教師教育コース (Teachers' Training Course in History.) Mj.	Rice (教育学部准教授)
22. 初等段階の歴史 (History for Primary Grades.) Mj.	Rice
23. アメリカ史の教師教育コース (Teachers' Course in American History.) Mj.	Deratt (シカゴ師範学校教師)
24. 地域の歴史と市民 (Local History and Civics) Mj.	Rice
25. 芸術の発展 (The Development of the Arts.) Mj.	Rice
スピーチ、音読、演劇 (Speech, Oral Reading, and Dramatic Art.)	
51. 初等および中等学校教師のための一般的なコース (General Course for Teachers in Elementary and Secondary School.) Mj.	Fleming (教育学部准教授)
52. 初等および中等学校における演劇の学習 (Dramatic Work in Elementary and Secondary Schools) Mj.	Fleming
53. 子どもの物語の解釈 (Interpretation of Children's Stories.) Mj.	Fleming
54. 文学の解釈 (Interpretation of Literature) Mj.	Fleming
55. ジェスチャー、声、スピーチ (Gesture, Voice, Speech) Mj.	Fleming
自然科学 (Natural Science)	
81. 自然学習のフィールドワーク (Field Work.-Nature Study.) 1/2 Mj.	Meyers (教育学部教授)
81A. フィールドワークの原理と方法 (Principles and Methods in Field Study.)	Jackman (教育学部教授)
82. 自然学習におけるフィールドワークと実習の教育的側面 (Pedagogical Aspects of Field and Laboratory Work in Nature Study.) Mj.	Jackman
82A. 選択された地域における実習の原理と方法 (Principles and Methods of Laboratory Work on a Selected Area.)	Jackman
83. 生物学の教授における原理と方法 (Principles and Methods of Teaching Biology.) Mj.	Jackman
84. 物理と化学の教授における原理と方法 (Principles and Methods of Teaching Physics and Chemistry.) Mj.	Jackman
85. 科学の教授の歴史 (The History of Science Teaching.) Mj.	Jackman
86. 科学学習の組織 (Organization of Science Work.) Mj.	Jackman
87. シンプルな典型的な産業との関係における実験科学 (Experimental Science in Relation to Simple Typical Industries.) Mj.	Camp (科学講師、実験学校)
地理学 (Geography)	
101. 土地の形態の地理学 (Geography of Land Forms.) Mj.	Baber (教育学部准教授)
101A. 地理学とフィールドワーク (Geography and Field Work.) 1/2 Mj.	Meyers (教育学部教授)
102. 南北アメリカの地理学 (Geography of North and South America) Mj.	Baber
103. ユーラシアの地理学 (Geography of Eurasia.) Mj.	Baber
104. 地球の一般的な地理学 (General Geography of the Earth.) Mj.	Baber
105. 生物地理学 (Bio- Geography.) Mj.	Meyers
106. 一般地理学 (General Geography.) M.	Baber
107. 地理学 (Geography) M.	Baber
108. 実地地理学 (Field Geography.) DM.	Baber
109. 政治地理学 (Political Geography) Mj.	Baber
数学 (Mathematics)	
131. 初等数学 (Elementary Mathematics (Academic.) Mj.	Myers (教育学部教授)
132. 初等数学の教育 (Pedagogy of Elementary Mathematics.) Mj. 春学期	Myers

133. 中等数学の教育 (Pedagogy of Secondary Mathematics.) Mj.	Myers
134. 初等数学の教育 (Pedagogy of Elementary Mathematics.) Mj. 夏学期	Myers
135. 測量と天文学の原理 (Elements of Surveying and Astronomy.) Mj.	Myers
136. 算数の歴史 History of Mathematics. Mj.	Myers
137. 中等及びカレッジのコンテンツコース (Content Course in Secondary and Collegiate Mathematics.) Mj.	Myers
138. 微積分の物理的な問題への応用 (Application of Calculus to Physical Problems.) Mj.	Myers
技 芸 (The Arts)	
151. 描画と彩色 (Drawing and Painting.) Mj.	Hollister (講師)
152.151 の続き Mj.	Hollister
161. 初等描画と彩色 (Elementary Drawing and Painting) Mj.	Duncan (教育学部准教授)
161A. 161 と類似 Mj.	Duncan
162. 応用デザイン (Applied Design.) Mj.	Duncan
163. 自然研究の描画と彩色 (Nature Study Drawing and Painting) M.	Duncan
0163. 地理図 (Geographic Drawing(Chalk Modeling))	Duncan
0164. 構図とデザイン (Composition and Design.)	Covington
165.166.167. 粘土のモデリング (Clay Modeling(Not pottery.) 3 1/2 Mjs.	Cushman
165A. 作図における表現の理論と実践 (Theory and Practice of Expression in Drawing.) M	Covington
166A. 構成的な仕事に適用されるデザイン (Design as Applied to Constructive Work.) M	Cushman (講師 実験学校教師)
0167. 芸術教師のための特別コース (Special Course for Art Teachers.)	Cushman
168.169.170. 芸芸教授者のための特別コース (Special Course for Art Teachers.) 3 Mjs.	Duncan
171. 織物 (Textiles.) Mj.	Harmer (実験学校教師)
172. 織物 (Textiles.) Mj.	Harmer

* 授業科目名の後のM=Minor courseで1日に1時間を6週行うもの、Mj=Major Courseで1日に1時間を12週行うもの、DM=Double Minor courseで1日2時間を6週行うもの、DMj=Double Major Courseで1日に2時間を12週行うものである。

< Annual Register 1903より筆者作成 >

これらのうち、自分の専門分野について 18 Majors を履修することになっている。

18 Majors の内訳は、教職に関する科目：4 Majors、教科に関する科目 14 Majors となっている。表5にカリキュラムの例を示す。教科に関する科目は、ほとんどが教科専門科目で、教科の指導法に当たる授業科目は見られない。また、教育学部のカリキュラムにはここに示されている授業科目は入っていないことから、中等学校と師範学校教員志望者コースにおける教科に関する科目は、専門諸学科の授業科目に位置づけられていたと考えられる。

表 5 中等学校教員と師範学校教員志望者コースカリキュラム

歴史と公民 (History and Civics)		
教育学 (Education)	General	3 Mjs.
	Special	1 Mj.
政治学 (Political Science: Civil Government of the United States)		1 Mj.
歴史 (History)		6 Mjs.
歴史の教師教育コース (Teachers' Training Course in History)		1 Mj.
社会学 (Sociology: Social Origins)		1 Mj.
地理学 (Geography)		1 Mj.
選択科目 (Electives)		4 Mjs.
合計		18 Mjs.

英語と英文学 (English Language and Literature)		
教育学 (Education)	General	3 Mjs.
	Special	1 Mj.
歴史 (History)		2 Mjs.
英語と英文学 (English Language and Literature)		6 Mjs.
選択科目 (Electives)		6 Mjs.
合計		18 Mjs.

数学 (Mathematics)		
教育学 (Education)*	General	3 Mjs.
	Special	1 Mj.
数学 (Mathematics)	大学代数あるいは測量 (College Algebra or surveying)	1 Mj.
	分析論 (Analytics)	1 Mj.
	微積分 (Calculus)	1 Mj.
	方程式の理論 (Theory of Equations)	3 Mjs.
	分析力学 (Analytical Mechanics)	
	微積分 (Calculus)	
	現代の合成幾何学 (Modern Synthetic Geometry)	
	教師コース (Teachers' Courses)	
	数学史 (History of Mathematics)	
物理学 (Physics)	一般物理学 (General Physics)	3 Mjs.
	機械製図 (Mechanical Drawing)	1 Mj.
天文学 (Astronomy)		1 Mj.
選択科目 (Electives)		3 Mjs.
合計		18 Mjs.

*算数教育学は教育学に含む

<Annual Register, 1903 より筆者作成>

同コースでは、修了者には専門分野に応じて文学士 (A.B.)、哲学士 (Ph. B.)、理学士 (S.B.) のうちのいずれかと教育学の専門職ディプロマが授与されることになっていることから、学生は教職に関する科目は教育学部で履修し、教科に関する科目は専門諸学科に位置づけられた授業科目を履修していたと考えられる。ここに、教育学部と専門諸学科の連携が見て取れる。

また、履修案内には、シニアカレッジで提供されるコースに関する情報については、『シカゴ大学年次記録』を参照するとともに、学科長にも相談することと書かれている²¹⁾ ことから教育学部と専門諸学科の連携を意識していたことが分かる。

まとめ

検討の結果、デューイ学科長時代の教育学科 (1896-1901 年度) 及びデューイ教育学部長時代の教育学部 (1903 年度) における「教科に関する科目」は次のように位置づけられていたことが明らかになった。

デューイ学科長時代の教育学科では、いずれのコースにおいても「教職に関する科目」は教育学科で開設する授業科目を受講し、「教科に関する科目」のうち、教科の指導法に関する科目は教育学科で開設する授業科目及び他学科で開設する授業科目の両方を受講する、教科専門科目は他学科で開設する科目を受講するという位置づけであった。教科の指導法については、多くは教育学科開設科目であり、他学科開設科目は若干みられるという結果であった。

デューイ教育学部長時代の教育学部では、シニアカレッジ相当で初等教員養成を目的とする全科コースBにおいては、「教職に関する科目」(3Mjs)、「教科に関する科目」(15Mjs) の教科の指導法に関する科目及び教科専門科目のいずれも教育学部が開設する授業科目を受講するという位置づけであった。つまり、このコースでは、全ての授業科目を教育学部で履修して、卒業時に Ed.B (教育学学士) と教育特別ディプロマ (a special diploma in Education) が授与されるという結果であった。

ジュニアカレッジ修了者及び教育学部以外のシニアカレッジ在学生対象の中等教員、師範学校教員養成コースでは、「教職に関する科目」(4Mjs (General:3Mjs ,Special:1Mj)) は教育学部で開設する授業科目を受講し、「教科に関する科目」(14Mjs) は、各学科で開設する授業科目を受講することになっていた。そして、履修した専門科目に対応して、A.B., Ph.B., S.B. のいずれかの学士号が大学から授与され、同時に教育学部から教育

ディプロマが授与されることになっていた。

つまり、デューイ教育学部長時代の教育学部では、初等教員養成は「教職に関する科目」「教科に関する科目」のいずれも教育学部で行い、中等学校教員及び師範学校教員養成は教育学部と他学科が連携して行っていたことが明らかになった。この結果は、中等学校教員及び師範学校教員は、教科に関するより専門的な知識や技能が求められると考えられていたことによると推察される。

今日の日本の教師教育においては、教科に関する科目の実施に当たって、教科専門の教員と教科の指導法を担当する教員が講義を協働で行うといった教科と教職の連携を進めること、他学部等と連携し、高度かつ最新の専門的知見に基づく科目を開設することが求められている。デューイ教育学部長時代の教育学科においては、他学科の教員が担当する教科の指導法に関する授業科目が若干ではあるが開設されていた。また、デューイ教育学部長時代の初等中等教員養成及び教育学部長時代の中等教員養成に関しては、教育学科及び教育学部以外の専門諸学科において教科に関する科目を受講することになっており、専門諸学科と連携した最新の専門的知見に基づく学びが実践されていた。さらに、教育学部の履修案内には、専門諸学科の学生は教育学部のコースの履修にあたっては学科長に相談をすることと明記されており、ここにも教育学部と専門諸学科の連携が見られた。こうした教師教育実践より、今日の日本の教職課程においても、教科に関する科目の実施に当たって、専門諸領域の教員と連携して最新の専門的知見に基づく学びを実践することに加えて、教職担当の教員と教科専門の教員が協同して教師教育を行うという意識の下に教育に当たる必要性が示唆される。

註

- 1) 小柳正司『デューイ実験学校と教師教育の展開』学術出版会、2010年、167頁。
- 2) 中央教育審議会初等中等教育分科会 教員養成部会「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申）」（平成27年12月21日）37-38頁。
- 3) 三好信浩『教師教育の成立と発展』東洋館出版社、1972年、2頁。
- 4) 同書、146頁。
- 5) 同書、147-148頁。
- 6) 同書、205-206頁。
- 7) 同書、218頁。

- 8) 同書、234頁。
- 9) 1933年の全国調査の頃までに、多くの師範学校は、名称を師範大学と変え、ハイ・スクール卒業後4カ年の課程を設けて、実質的に一般大学と同じ修業年限にまで到達するようになった。しかし、この時点ではなお、1年課程、2年課程、3年課程が併設されていた。初等学校教師になる者は、殆どこの短縮された課程を修了して就職していった。同書、234-235頁。
- 10) Stiles,L.J., *Teacher Education in the United States*, Ronald Press, 1960, p.98. この25校の内訳は、公立10校、私立15校であった。
- 11) *Annual Register*, July,1895 - July,1896, The University of Chicago Press, pp.52-53. 本文中の下線は、引用者による。小柳正司「シカゴ大学実験学校創設の背景にあったデューイの教育学構想－師範教育から教育科学の確立へ－」『鹿児島大学教育学部紀要・教育科学編』第50巻、1999年、218頁。
- 12) *Annual Register*, 1895-1901.
- 13) 小柳正司、『デューイ実験学校と教師教育の展開』、192頁。
- 14) 「他の学科には数多くのコースがある。特に社会学と人類学は、教材に直接関係することから、教育学科の学生に有用である。多くの学科はまた、特に教師のニーズに合うコースを提供している。学科長は、喜んでこれらのコースの選択に関して学生と相談し、教育に関する高い学位のための条件を満たすように条件を整えるでしょう」と説明されている。*Annual Register*, 1901,p.182.
- 15) *Annual Register*, 1902, 1903. 本文中の下線は、引用者による。教員養成部の目的には、1902年度にデューイが学部長になった際に「中等教育」に関する記述が加えられた。そのほかの部分は、1901年度から3年間ほぼ変更はない。
- 16) *Annual Register*, 1901,p.108, 1902,pp.123-125, 1903, pp.132-141.
- 17) *Annual Register*, 1903, pp.132-140. 小柳正司『デューイ実験学校と教師教育の展開』、207頁。
- 18) 同書、205 - 206頁。
- 19) 「教科に関する科目」の分析を行うことを目的とするので、「哲学と教育学」に関する授業科目は省略する。
- 20) 上記のリストに記載されている科目（哲学と教育学、歴史・英語・音読、技芸、算数、科学（地理を含む））のいずれかから選択できる。一般教育の観点から選択するか、幼稚園教育、批判的教授、専門分野の指導に特化することができる。*Annual Register*, 1903, p.137.
- 21) *Annual Register*, 1903, p.140.

本研究は JSPS 科研費 JP16K04459 の助成を受けたものです。